

札幌市立屯田北小学校の取組【雪に関する教育課程】

1. 研究のねらい

昨年より引き続き2年目の「雪に関する教育課程」の実践である。本校は、札幌市北部に位置し、日本海側から入り込む偏西風の影響で冬期間の降雪量が多い。しかしながら札幌市西部でのスキー場には遠く、ウィンタースポーツを楽しむ児童は少数である。家庭では除雪に追われることも多いことから、雪に対するイメージはよくない。そこで、本校では「雪の学習活動」を教育課程に位置付け、低学年では生活科「スノーランド」の開催、中学年では総合「防風林の雪探検」の学習、高学年では総合「雪の学習プレゼンテーション」を通して、雪と親しむ機会を設けている。これらの活動を系統的に行っていくことで雪を親しみ楽しむ子どもを育てたいと考えている。

2. 取組内容

(1) 2年生生活科「北っ子スノーランド」

～低学年に位置付くスノーランド～

2年生では生活科「冬をもっと楽しもう」に「雪の学習」を位置付けている。低学年では毎年恒例となり本校の「北っ子ガーデン」に2年生の子どもが雪像を作る活動を行っている。また、1年生や幼稚園の子どもを招待する内容となっており、自分たちも前年度に体験したことを想起しながら、滑り台等の楽しい「雪のしかけ」をつくる子どもが見られる。また、年によってはアイスクャンドルを作成し、夕方に点灯することで地域の方々も対象とした活動も行っている。



(2) 3年生総合「Let's 防風林 冬タイム」

～年間を通して見つめる防風林活動～

3年生では総合「Let's 防風林タイム」として、冬期間の活動に「雪の学習」を位置付けている。本校に隣接している「屯田防風林」を3年生は年間を通して観察調査し、そのよさを校内や地域の人々に発信する活動を行っている。冬期はスノーシューを履いて、防風林を散策する活動を行った。スノーシューを履くことで、積雪の中での機動性が格段に上がり、また冬期ということで、葉をつけていない樹木は、直接触れるなどのアクセスが容易で、夏とは違った見方をすることができる。実際に木肌を触り、「温かい!」「幹が太い」など冬期間ならではの感想をもつことができた。また、地面を目指して雪を掘り続け、生き物をいないかを探る子どももいて、興味関心が高まっていた。



(3) 5年生総合「Let's 雪タイム」

～雪を調べて、プレゼンテーション～活動～

5年生では、総合「Let's 雪タイム」として雪について課題をもち、協働的に調査し発表する活動に「雪の学習」を位置付けている。雪から連想するものを仲間と共有しながら、「利雪」「冬のスポーツ」「雪害」「雪の正体」といった視点を広げ、それぞれのテーマで発表することになっている。今年度の例を挙げると、「雪中野菜」を調べているグループは、実際にキャベツを一か月間埋めて糖度を計測したり、「雪の結晶」を調べてドライアイスを使って人工で結晶を作ったりしながら、「雪のよさ」や「雪の秘密」を発表しようとして取り組んでいる。活動は3学期を中心に行い、各学級6チーム（5～6人構成）、全18チームがプレゼンテーションを行う。参観などに日程を合わせ、2月下旬に保護者に向けて発表する。その後、互いに評価をして、上位チームが札幌市雪対策室主催の「雪と暮らすおはなし発表会」に参加することになっている。この活動はすでに7年目を迎え、子どもにも、保護者にも定着した取組になっている。

本校では6年間を通して「雪」を様々な角度で見つめ、学ぶカリキュラム・マネジメントを実施し、札幌市の特色ある教育の重点「雪」について実践している。



3. 成果と課題

(1) 成果

雪の学習を系統立てて生活科や総合に位置付けて5年目となる。教育課程に位置付けたことで雪に対する視点が低学年では「雪とどう仲良くなるか」、中学年では「雪と自然」、高学年では「雪と地域社会」といったように、雪の見方も、「造形的側面」「環境的側面」「社会的側面」といった多角的・多面的な見方・考え方を育てられている。また、本実践プロジェクト予算で購入したホワイトボードやイーゼルを活用し、協働的な学びを促進することができた。

(2) 課題

雪の教育課程の成果をどのようにエビデンスとして立証していくかが課題である。例えば、休み時間に外遊びをする子の数や、冬のイベントへの参加人数などを長期的に計測していきたい。

